

ブーム付災害対応特殊消防ポンプ自動車の取得について

討論要旨 谷口武司議員

この本議案、ブーム付きの災害対応特殊消防ポンプ自動車の購入に際し、入札種別をどのように購入したかとか、モリタ製のポンプ自動車以外の車両が選択できなかったか否かを消防総務課のほうへ聞き取りにお伺いいたしました。消防総務課では、本市消防が必要とする機能を有する消防自動車を調達する必要性を重視する一方で、モリタ以外のメーカーでも同等の仕様を満たす車両の開発が可能との考え方から、一般競争入札に付することについて、本市総務課のほうへ依頼をされておるといことです。

また、本調達に当たり、同等の機能を有するポンプ車の入札状況をインターネットで把握した情報として、全国で平成27年度から令和3年度までの間に一般競争入札4件、指名競争入札5件の合わせて9件の入札を確認されております。その落札状況として、株式会社モリタ以外の業者が落札した事例も確認をされております。結果的に、株式会社モリタ以外の業者が落札した自治体にあっても、株式会社モリタ製を取り扱うことができる自動車販売業者が販売したのではないかという考察はあるものの、株式会社モリタ以外の自動車販売業者の入札も考慮し、一般競争入札を選択されております。

なお、今回のポンプ車の購入は、平成16年度に購入した15メートル級のはしご車の更新時期に合わせて上げられておるものだという事です。

ここからは、このポンプ車、私、元消防団員として本市消防に関わらせていただいた経験から、今回のブーム付災害対応特殊消防ポンプ自動車の有用性を、第37号議案の参考資料にいろいろ仕様が書いてあるんですけども、それ以外のところで述べさせていただきたいと思ます。

まず第1に、このポンプ車は、稼働時に従来のはしご車のように車体固定のためのアウトリガー、外に出すやつですね、これを出さずに、車体の真下にアウトリガーを出すことができる点が挙げられます。これは、車体が入っていける道路幅があれば、この車両の運用が可能ということになります。本市の住宅地の道路事情を考えると、非常に有効なものだと考えられます。

第2に、このポンプ車の特異性でもあるブームに関して言えば、これまでのはしご車になかった屈折した動き、それと水平方向への延長という動きが組み合わせて使用することが可能な点が挙げられます。昨今の住宅事情は、前面に駐車場を配置して、お庭を持たない2階建ての住宅というのが主流になっていると思ます。このブーム付きの災害対応特殊消防ポンプ自動車のブームは、屈折した動きによって、まず高さ5メートルをキープできます。そこから水平方向へ8.4メートル、ブームが延長することが可能なんですけれども、これは、道路に止めてから、一般的な今建っているおうちの2階のベランダまでバスケットを持っていくことができます。

これによって、何ができるかという点、これまでは、2階の安全状況だとかそういったことは1階からなかなか確認できなかったんですけども、壁面にはしごだとか、ベランダ面にはしごをかけて、車載の持っていったはしごをかけて2階に突入していた。この作戦が、より安全に素早く救助だとか、消火だとか、状況の把握だとかということができるといふそういう戦術を消防のほうにもたらすこととなります。

第37号議案 ブーム付災害対応特殊消防ポンプ自動車の取得について、皆様の賛成をお願いしたく、私の賛成討論を終了いたします。